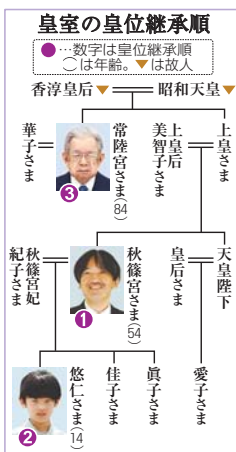


秋篠宮さま 立皇嗣の礼



「立皇嗣宣明の儀」で、天皇、皇后両陛下の前で決意の言葉を述べられる皇嗣秋篠宮さま＝8日午前11時8分、宮殿・松の間（代表撮影）



「立皇嗣宣明の儀」で、天皇、皇后両陛下の前で決意の言葉を述べられる皇嗣秋篠宮さま＝8日午前11時8分、宮殿・松の間（代表撮影）

陛下が皇太子として臨んだ「立太子の礼」は1991年2月に行われたが、立皇嗣の礼の挙行は憲政史上初。当初は4月開催の予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で延期になっていた。昨年4月の上皇さまの「退位礼正殿の儀」から続く、国事行為としての代替わり儀式的締めくくりとなる。

宣明の儀では、天皇のみに着用が許された古式装束「黄櫨染袍」をまとった陛下が「皇室典範の定めるところにより文仁親王（秋篠宮）が皇嗣であることを、広く内外に宣明します」と述べた。

次いで、「黄丹袍」を着た秋篠宮さまが「立皇嗣宣明の儀をあげていただき、誠に恐れ多いことでございます」と述べ、皇嗣としての決意を語った。傍らには装束姿の紀子さまが立った。

中心儀式となる宣明の儀は、宮殿の中で最も格式の高い「松の間」で開催され、皇族や菅義偉首相も参列。当初、約350人を招待予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、三権の長や地方自治体の代表ら約50人に絞った。祝宴である「宮中饗宴の儀」や、一般からの記帳は中止となった。

継承順1位「務め果たす」 代替わり儀式締めくくり

秋篠宮さまが皇位継承順1位の皇嗣の地位に就いたことを内外に示す「立皇嗣の礼」が8日、皇居・宮殿で催された。午前に開かれた国事行為の「立皇嗣宣明の儀」で、秋篠宮さまは「皇嗣としての責務に深く思いを致し、務めを果たしてまいりたく存じます」と、天皇、皇后両陛下を前に決意の言葉を述べられた。